

http://www

新型インフルエンザ ニュースレター@青森県

Pandemic Flu Newsletter @Aomori Pref

新型インフルエンザ関連情報をお届けする、ニュースレター

新型インフルエンザ(A/H1N1)は、2011年4月1日から通常の季節性インフルエンザに変わりました。

現在は、「平時」(新型インフルエンザが発生していない状態)です。

発行日 Newsletter Date

2011年12月12日

Front Page

『新型インフルエンザ・ニュースレター@青森県』第4号早刷り版

目次 Inside This Issue

- 『新型インフルエンザ・ニュースレター@青森県』第4号早刷り版
- 〔速報〕ブタ由来インフルエンザ感染症例の発生(米国)

米国でのブタ由来インフルエンザの感染症例報告数の状況

○H3N2 感染症例(2011年9月以降)

発生州	数
インディアナ州	2
ペンシルバニア州	3
メイン州	2
アイオワ州	3
ウエストバージニア州	1
合計	11

○H1N2 感染症例(2007年以降)

発生州	数
ミシガン州	1
ミネソタ州	1
合計	2

※黄色マーカー部は、ヒト-ヒト感染

こんにちは、青森県保健衛生課です。

米国ではこの数か月間、ブタ等への暴露歴がある、又はその暴露歴がないブタ由来インフルエンザ H3N2 感染症例が報告されてきましたが、今回、これとは異なる種類のブタ由来インフルエンザによる感染症例の報告がありました。第4号早刷り版で、その概要をお知らせします。

速報

ブタ由来インフルエンザ感染症例の発生(米国)

米国疾病管理センター(米国 CDC)は、12月9日、ウエストバージニア州で1例、ミネソタ州で1例のブタ由来インフルエンザ感染症例を確認したと発表しました。その概要は、次のとおりです。

1. 今回確認された患者等に関する情報は、次のとおりです。

①ウエストバージニア州の患者

- 患者は子供で、ヒトで流行したインフルエンザ(H1N1) 2009の遺伝子を持つブタ由来インフルエンザ A/H3N2 感染が確認されましたが、現在では完全に回復しています。
- また、患者の発症前にブタとの直接又は間接接触はなく、ヒト-ヒト感染によるものとしています。(今年11月には、アイオワ州でヒト-ヒト感染による3人の患者が報告されています。)

②ミネソタ州の患者

- 患者は子供で、ブタ由来インフルエンザ A/H1N2 感染が確認されましたが、現在では完全に回復しています。
- 米国が新たなインフルエンザウイルス感染症例の報告義務を課した2007年以降、このウイルスへの感染報告としては2例目となりました。(1例目の患者は、2007年にミシガン州で確認)
- また、患者の発症前にブタとの直接又は間接接触はなく、ヒト-ヒト感染によるものとしています。

2. 今回確認されたブタ由来インフルエンザ A/H3N2 及び A/H1N2 の特徴

①ブタ由来インフルエンザ A/H3N2 ウイルス

- ヒトの季節性インフルエンザ A/H3N2 ウイルスとは異なるものの、

1990年代にヒトで流行したインフルエンザウイルスに僅かに類似しているため、成人では、このウイルスに対する交差免疫性を僅かに有していることがあります。このことが、これまでに確認された、このウイルスへの感染患者11人のうち10人が子供であったという原因の可能性があるととしています。

②ブタ由来インフルエンザ A/H1N2 ウイルス

- ・ 2007年頃にヒトで流行した「A/New Caledonia /20/99-like」と呼ばれるヒトのインフルエンザ A/H1N1 ウイルスに類似しているため、「A/New Caledonia /20/99-like」ウイルスに暴露したヒトは、このウイルスに対する交差免疫性を僅かに有していることがあるとしています。

3. 米国 CDC などの対応

- ・ 米国では、ブタ由来インフルエンザ A/H3N2 ウイルスによる継続的な地域感染は確認されていません。しかし、米国 CDC はこの発生状況を「大変深刻なこと」ととらえており、患者の発生に伴うサーベイランスが強化されています。
- ・ また、米国 CDC は、ブタ由来インフルエンザ A/H3N2 ワクチン候補株を既に開発しています。このワクチン候補株は、必要な場合にワクチン生産を始めることができるよう、ワクチン業者に提供されています。
- ・ ブタ由来インフルエンザ A/H3N2 及び A/H1N2 ウイルスは、抗インフルエンザ薬（タミフル、リレンザ）に感受性を有しています。

4. ヒトにおけるブタ由来インフルエンザ感染の検知について

通常ブタで見られるインフルエンザウイルスのヒトへの感染は稀なことですが、最近、ヒトでの感染例が増加しています。これは、次のような要因を含む様々な理由によるものとされています。

- ① 2009年のパンデミック以降、米国におけるこれらのウイルスに対する検査技術が改良され、以前は検知できなかったウイルスを今では確認できるようになったこと。
- ② 米国では、毎年この時期にサーベイランスの強化がされますが、季節性インフルエンザの流行が非常に小さい時期でもあるため、新たなインフルエンザによる散発的な感染例が検知されやすいこと。
- ③ 感染ブタへの暴露やそれに続く限定的なヒト-ヒト感染の発生数が実際に増加している可能性があること。

【米国 CDC 新たなインフルエンザウイルスによるヒトへの感染 2011年12月9日】

http://www.cdc.gov/media/haveyouheard/stories/novel_influenza.html

発行：青森県健康福祉部保健衛生課

030-8570 青森県青森市長島 1-1-1

Phone:

017-734-9284

Fax:

017-734-8047

E-mail:

hoken@pref.aomori.lg.jp

URL:

http://www.pref.aomori.lg.jp/welfare/health/pandemic_flu_action.html